

## 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームプランタンV 2F	評価実施年月日	2009/12/27～2010/1/13
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	2010/1/15

北海道

は外部評価項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p> <p>地域に密着した施設を目指し、理念を職員、入居者、来設者等すべての方が見てもらえるようにしている。</p>		
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p> <p>施設長を始め管理者、職員で理念に基き、地域に密着し職員と利用者、家族や関係者が生き生きできるように実践している。</p>	○	<p>新しい職員にも共有できるようにしていき、時々理念について話し合う時間を作りたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p> <p>入居者や家族へ理念の理解はしてもらっている。家族の面会が多いが、地域の方が少ないので理念の説明不足がある。</p>	○	<p>地域の方に来てもらい理念の説明をしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p> <p>家族の方の面会が多いが地域の方の面会は少ない。</p>	○	<p>今後地域方にも2階に遊びに来てもらえるように声掛けし和やかな雰囲気理解してもらい、気軽に遊びに来てもらえるようにする。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p> <p>地元中学校の職場体験や学校に招かれて歌や学校祭を楽しんでいる。敬老会にも参加している。イベントの際ボランティアの方に来てもらい、歌や踊りを楽しんでいる。</p>	○	<p>地域のイベントや自治会や老人会などの交流を積極的に図りたい。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p> <p>地域に高齢者の方が多いが互いに外出することが少なく、話し合いなど実行できずにいる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>長く働いている職員も多いので評価の意義をもう1度考え、今の状態を知り、今後の目標を立てる意味で活用している。全員で考える事で職員の考え方が分かる。</p>	○	今後意見を反映し実践していく。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>新型インフルエンザの流行で看護師や他施設の職員と意見交換ができた。</p>	○	今後会議を活かし評価への取り組みを話し合い、地域の方の意見を頂き活かして行きたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市役所に近く疑問や相談などいつでもいける状態にしている。</p>	○	市とも連携し有効な情報を活用して行きたい。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>問題あればグループで解決にあたり、必要な方に十分に説明できるようにしている。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>職員同士で利用者へ言葉掛けに気をつけ、意識向上のために少しの問題あれば見逃さず注意している。</p>	○	職員が時間に追われていると余裕がなくなるので特に言葉掛けに注意し、虐待について話し合っ行って行きたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>不安や疑問があればいつでも説明できる体制にしている。又コミュニケーションにより分かりやすく不安を与えないように注意する。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の意見が出たら施設全体の問題として考え、できるかぎり運営に活かして行きたい。	○	意見に対して改善し利用者に安心してもらえるように努力する。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	プランタン通信を定期的に作成し毎月の生活の様子をコメントしている。健康状態は面会時報告し、特に金銭管理の報告を徹底している。又面会に来れない家族には連絡をとりあっている。	○	面会に来れない家族への連絡が不足する事が無いよう定期的に行って行きたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見、苦情があった場合施設としてきちんと捉え、十分な話し合いを行い改善できるようにしている。又、すぐに解決できない場合グループに連絡しすぐに回答を家族に連絡し納得してもらっている。	○	
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案はいつでも聞ける状態にしており、良いと思えば検討し実践している。日常的に交流を図り色々アイデアを出せる雰囲気作りをしている。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者や家族の希望を優先し、職員と話し合い、必要な職員を確保し対応している。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員が離職する場合、利用者や家族に十分説明を行い、いつでも連絡や相談が取れるようにしている。なじみの職員が離れる寂しさを理解し温かく接して行き、新しい職員とも早くなじめるように支援して行く。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>どのような研修があるか職員に伝え、希望があればシフト変更を行う。研修後感想を聞き全体会議を行い、実践していく。</p>	○	<p>実践後の経過を記録として残し今後活かしていく。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>研修会や他施設との交流を行い良い所を取り入れていく。グループ内の交流は多いが他施設との交流は少ない。</p>	○	<p>限られた中での交流しかないので、同業者との交流を増やしていく。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員同士の交流を行いながら日頃不安な事や悩みを聞き、お互い納得いくまで話し合いストレス軽減に努めている。</p>		
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の希望を優先し必要あればシフト変更し、対応できない場合は話し合い納得している。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に面接に行ったり、本人や家族に施設に見学に来てもらい十分納得できるように話し合う。不安にさせないよう声掛けなど注意する。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>面談の時家族や本人が困っている事を聞き、不安や希望を理解し利用してもらう。すぐ回答できなければグループ内で話し合い回答する。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受け、こちらの施設での対応ができなければグループで相談し他のサービス利用を説明する。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	まず施設内を見学したりこちらのペースで日課を行わず本人が今までと変わらないような生活から始め環境になじんでいけるように柔軟に対応できるようその都度工夫している。	○	本人の希望よりこちらの希望を優先していないか検討し、職員間で情報を共有して行きたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	何でも手を出し支援するのではなく、この部分はまだできるとわかっていただき、そばで支えて良い関係を築き、尊敬の心を忘れずに接しています。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族に定期的にプランタン通信を出し、面会時にはなんでも話し合える関係作りに向け、家族の不安や悩みを聞き励ましたり共に本人を支えていく事を共感していく。	○	職員全員が本人の日常生活を理解し、家族に聞かれたときに答えられるようにしていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	これまでの家族と本人の関係を理解し、決して踏み込みすぎず、時に相談にのり、プランタン通信などで良い架け橋と慣れるよう努力していく。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	長年続けている趣味など把握しているものは積極的に続けて行けるように支援していく。本人の家族親族や友人知人などいつでも面会できるようにしている。	○	面会に来れない家族等できるだけ協力してもらえるように連絡していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	塗り絵やレクなどを通じ、利用者同士が交流し生活の中に楽しみを持てるように支援している。	○	一人でいる利用者が参加したり、本人のストレスにならない様に声掛けしていく。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	契約終了後も気軽に来設してもらえる環境づくりをしている。又必要に応じて連絡を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に本人や家族から生活歴を聞いたり、日々の会話などから希望や意向を見つけ出し把握する事に努めている。又意向の把握が困難な時は表情や雰囲気から読み取っていく。	○	職員が仕事に追われず利用者向き合い何を望んでいるか考えて行けるようになりたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人、家族からのリサーチからフェースシートや生活歴を作成し職員が情報を元に介助に活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の変化や状態を申し送りやフロアミーティングにより情報を共有し現状把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	家族、本人、職員などの話し合いにより、結果を反映できるような計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	家族、本人、職員などと話し合い、ADLの低下や今のプランでは対応できないところを検討し計画の変更をしている。特に本人の言葉に耳を傾け何を望んでいるか考える。	○	常にこのままで良いかという気持ちで観察し、今の状態でできることを理解し目標となる事を分かりやすく記録していく。
38 ○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	利用者の会話や発言なども記録に記入し、誰でも状況が分かるような書き方にして情報の共有をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	施設が市街中心部にあり協力病院も近く利用者の体調の変化や相談に早い対応ができる。常盤公園も近く冬祭りなど見学にいける。ヨーカドーも近く買い物にも行きやすい。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	イベントの際にボランティアの方が来てくれたり、公共の機関が近い為いつでも相談できるようになっている。		
41 ○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	利用者の意向に沿って系列施設で協力しているが、他の事業所との連携は少ない。	○	他のサービス事業所との交流を行いたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	地域包括支援センターが近いが現在協働していることは少ない。	○	系列事業所ばかりでなく今後地域包括支援センターと協力し意見を聞いて行きたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	これまでの医療機関を継続して受診できるような環境を整えている。どこの病院とも連携をとり、利用者、家族の納得のもと、転院・診断もできる。利用者の健康状態を医師に細かく伝える工夫をしている。	○	受診時に利用者の健康状態を細かく伝える為の記録の書き方を工夫して行きたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症専門医に相談しながら、認知症に関する診断や治療が受けられるようにしている。		
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	週2回、系列の看護師の訪問があり利用者の現状の把握や相談を行っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	お見舞いに行ったり、電話やFAXでの情報の提供を速やかに行い、小まめな連絡を入れ早期退院に向け連携を図っている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	日頃より家族や医師とも話し合いを重ね、系列看護師とも十分協議し同じ方針でケアができるようにしている。	○	今後の経過も考慮して何処までできるのか職員全員で取り組んでいく。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	本人の希望、家族、医療機関とも連携を図り、できないを良く考慮し、職員も変化に備えて対応できるように準備をしていく。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>49 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>利用者と家族が不安になる気持ちを理解し、できるだけ今までの生活をできるように細部の情報をうけケアに当たっている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>50 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>個人を尊重し、大切に作る心でケアに当たっている。言葉を一番大切にし利用者の誇りを守りいつまでも1人の人間として生きていけるよう徹底している。問題があれば施設全体で考えている。</p>		
<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>51 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>個人によりコミュニケーションの方法が違い、表情や声の状態を汲み取りケアをしていく。</p>		
<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>52 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>ある程度の日課は決まっているが、決してこちら側の希望を優先させず、本人の希望を優先している。又決まった日課以外はテレビを見たり、おしゃべりしたり自由に過ごされている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>53 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>訪問理容を利用し希望のカット、毛染めができるようにしている。季節に合わせた服装にしている。</p>		
<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>54 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>個人に合わせて彩を良くしたり、細かく刻んだりと食べやすく、見た目も食欲をそそるような盛り付けにして職員も同じものを食べて検食をしている。糖尿病や体重制限などバランスを考え利用者が楽しみになれるように心がけている。お正月やひな祭りなど季節を感じられるような献立もある。</p>	○	<p>食事の準備を一緒に行えるように工夫して行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	タバコは時間を決め一緒に喫煙している。コーヒーやお茶など好みにより変えている。おやつも家族が持ってきたものを食べている方も居る。	○	体調や好みに応じ変えていく。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個人の排泄パターンを把握し声掛けや誘導を行い、失敗しても尊厳を損ねないような声掛けを行う。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望に沿うように柔軟に対応している。体調に応じ職員を増やしたり、冬期間も温度差が出ないように暖房をつけている。時々入浴剤を入れ温泉気分を味わってもらおう。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	利用者のペースに合わせてソファで過ごしたり居室で休まれている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	洗濯物をたたんでもらったり、お盆を拭いてもらったりと決して強制ではなく職員と一緒に会話して、出来る所まで行う。塗り絵やボール遊びなど一緒に笑い、気分転換をしている。毎週水曜日息子さんが囲碁に連れて行ってくれることを楽しみにされている方も居る。	○	決して無理の無いよう利用者のペースに合わせてゆっくり継続していく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は金庫に預かっているが家族の了解あれば個人で保管して時々缶コーヒーを買われる方も居る。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。</p> <p>天気の良い日は毎回近くの公園やデパートに行く。定期通院にて帰りに買い物などして行く。毎週水曜日囲碁に連れて行ってってくれる方も居る。駐車場が広いので椅子を出して日向ぼっこをしている。</p>	○	<p>天気の良い日など急な散歩の時職員の配置を行う。</p>
62	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。</p> <p>系列会社よりバスを借りて動物園や大型公園に出掛け家族も参加してもらっている。思い出の場所に行きたい希望あれば家族に連絡し日程を決め出掛けられるようにしている。</p>		
63	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p> <p>電話の希望あれば施設の電話を使い落ち着いてもらう。</p>		
64	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。</p> <p>玄関はいつでも開錠してありいつでも訪問しやすいようにしている。プライバシーが守られるよう居室に案内したり食事の時間を変えるなど配慮する。又面会者の希望も聞き利用者と落ち着いて会話を楽しまれる雰囲気にいしている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p> <p>身体拘束がおこす弊害を職員全員が理解していると言えない。言葉かけを特に注意する。身体拘束が必要なら本人、家族に十分な説明を行い同意を得る。</p>		
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。</p> <p>日中は何処も鍵を掛けずに自由に1階と2階を行き来できる。居室も鍵を掛けること無く自由に過ごしている。玄関は夜間以外鍵を掛けず利用者は外に出る事ができる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	利用者の居場所の確認を職員同士声掛けて行う。さりげなく付いていき安全確認したり居室を確認したり安全配慮はできている。夜間は時間で巡回行い記録に残している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居時に危険なものは持参してもらわず、本人の馴染んだ物で使い方が慣れているものはこちらで預かり、必要な時に共に見守りながら一緒に作業する。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	歩行状態の確認、投薬時の注意、病状など個人に合わせて対応している。食時介助も多いので誤嚥の防止など職員があせらず確実にできるようにしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	一部の職員が対応しているが全ての職員の理解、訓練はできていない。	○	全ての職員が理解できるようにして行きたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	人身の安全を守る事を優先し、消防の職員が火災報知器の点検の際火災訓練を行い、迅速に避難できる様にしている。	○	地震などの対策を検討していく。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	家族となじみの関係になっているので、利用者のリスクを細かく不安を与えないよう説明している。質問があればその都度納得できるまで説明している。	○	新しい利用者が入居されたので利用者の状態を十分観察しこれからのリスクを穏やかに説明していく。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルや表情や会話の中で体調を観察し主任に連絡、その後対応を看護師に相談したり、受診をするなど臨機応変にしている。	○	利用者の些細な変化に気づくような観察力をつける。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員全体で誤薬の危険を認識して、薬の準備から投薬まで複数の職員で行い、特に投薬前は職員同士声掛けて確認している。処方箋が変わった時は申し送りを徹底し疑問があれば連絡し確認する。	○	現状の方法がベストだと思わず常に確認を怠らず継続していく。薬の目的や作用を理解していく。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取を十分促し、家族からスポーツドリンクなど提供あれば勧める。薬に頼りすぎず運動、食事などで自然排泄を待ち、困難であれば薬を併用し調節していく。職員は予防と対応を理解できている。排泄困難な場合医療機関に相談し指示を受けている。	○	
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	訪問歯科と連携し状態を把握している。治療の必要あれば家族と相談し対応している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個人に合った食事の量や形状、栄養バランスで体調管理を行い、量を記録に残してケアの参考にしている。食事介助も職員は十分実践できており声掛けや各個人のペースに合わせゆっくり行うことができる。	○	好みに応じたメニューの工夫をして行きたい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種と手洗いうがいの徹底、ノロウイルスなどの対策を行っている。提携看護師の指導や医療機関に指示を受け対応している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	仕入を週3回行い常に新鮮なものを提供している。食事の残りは使わず食中毒の予防をしている。食洗器は熱湯消毒、台所は塩素系洗剤で消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	スロープの設置により車椅子でも出入りしやすく、手すりがあり安全に移動しやすい。常に清潔にしておりホールから玄関が見やすく来客時に対応しやすい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	廊下やホールに利用者の塗り絵や写真、季節ごとの飾り物を置き明るくなっている。共有部分は常に清潔に保ち、日光が当たり明るくなっている。声の大きさや不快な音にも気をつけゆっくり時間が流れるような空間になるよう心がける。鉄筋コンクリートなので外の音も静かで外気との温度差も少なく適温で過ごせるようにしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファの位置やテーブルの間隔を空け、テレビも利用者が一緒に見られるように工夫している。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	今まで使ってきた家具や使いやすい物を個人の好みに合わせ、家族と相談し配置している。利用者の好きな写真や絵など自由に飾り落ちていくようにしている。居室にトイレがあり車椅子でも移動しやすくなっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	建物が鉄筋コンクリートづくりなので外気温に左右されづらいが、窓を開けたり冬は加湿器をつけたりと快適に過ごせるようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	床には物を置かないようにし、ホールが広いのでソファの間隔を移動しやすい位置に置き自分の力で歩けるようにしている。各場所に手すりを設置し安全に移動できるようにしている。		廊下がホールから見えないので歩行時の転倒に注意する。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	利用者の言葉だけでなく表情などからできる力分かる力を見極めて失敗を防ぎ又失敗を認め自信をなくさないよう対応していく。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	駐車場が大きく天気の良い日は散歩や椅子を出して日光浴ができ、イベントで花火などできる。2階のベランダから花火が見えるので鑑賞会ができる。	○	プランターで野菜を作ったり、花を植えたりしてみる。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんど掴んでいない</li> </ul>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 毎日ある</li> <li>② 数日に1回程度ある</li> <li>③ たまにある</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての利用者</li> <li>② 利用者の2/3くらい</li> <li>③ 利用者の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどいない</li> </ul>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ全ての家族</li> <li>② 家族の2/3くらい</li> <li>③ 家族の1/3くらい</li> <li>④ ほとんどできていない</li> </ul>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> <li>① ほぼ毎日のように</li> <li>② 数日に1回程度</li> <li>③ たまに</li> <li>④ ほとんどない</li> </ul>

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載) 利用者職員との仲が良く一緒にお手伝いをしてもらえるなど、家族のように生活しているところです。